

第12回 バイオマス発電連携協議会で事例紹介を実施

4月18日、弊社は*バイオマス発電連携協議会に参加し、弊社が開発し特許を取得している「ボイラ燃料投入量の決定方法、ボイラ燃焼制御装置及びプログラムについて（特許第4791269）」の事例を紹介しました。

*当協議会は、国産材を主原料とするバイオマス発電所の技術向上と安定経営を目指すことを目的に設立されました。現在では全国20社以上のバイオマス発電事業者が会員となられ、定期的に協議会を開催し、発電所の運用ノウハウや経営課題解決に関する情報交換を行っております。

今回は、高知県土佐市で開催され、トラブル対応事例や、昨今の情勢による国産材の高騰、燃料使用量の削減等が話題となり、大変盛況でした。

弊社の事例紹介後に、会員の方から、当該プログラムを装着した ULTY-V plus の導入効果として、「実際に約2%の燃料を削減できており、収支にも大きく貢献している。燃料削減に直接つながる好事例」とのコメントをいただきました。

弊社は、これからも ULTY-V plus をはじめ様々な省エネシステムの開発及び製品化を通じて持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

